

八学大女子ラグビー × 太子食品工業

健康づくり スクラム

大豆製品の効果分析



協定を結んだ工藤社長(中央)と工藤監督(左から5人目)、吉田部長(右から5人目)。両横は女子ラグビー部員

八戸市の八戸学院大学女子ラグビー部と三戸町の太子食品工業(工藤茂雄代表取締役社長)は7日、連携協力協定を締結した。同部は豆腐や納豆など同社の大

豆製品の提供を受け、大豆イソフラボンなど成分を撰

取した際の筋肉量変化などのデータに基づき、共同で女子アスリートの健康管理や増進などに取り組む。同大で行われた調印式には同部の工藤祐太郎監督、吉田稔部長、部員8人と工藤社長が出席。工藤監督と工藤社長が協定書に調印した。食品提供などで同社が大学運動部と連携するのは今回が初めてという。

部員8人は全員が学生寮で生活し、大豆製品を積極的に摂取した際のデータが取りやすい環境にある。工藤監督は「(植物性)タンパク質を摂取した際のトレーニングの効果などが分かる」と述べ、数年間のデータを蓄積・分析する考えを示した。工藤社長は「提供を通じ、女子アスリートへのイソフラボン効果を確認したい」と期待感を示した。

同部の鈴木佳寿音キャプテン(2年)は「製品提供はうれしい。大豆で万全な体を作り、全選手が活躍できれば」と笑顔で話した。(若松清巳)